

北京消息 第5号

2008. 4. 1

日本財団法人新潟産業促進中心北京代表処
(新潟市 北京事務所)
中国北京市東城区建国門内大街18号
恒基中心 1号楼704室 〒100005
TEL +86-10-6517-2460 FAX +86-10-6517-8687
E-mail ipc-beijing@nbc.pavc.ne.jp

JA全農が北京・上海で実施

日本産米販売促進イベント開催

昨年6月に対中国の米輸出が解禁され、JA全農から昨年7月に第1便、今年2月に第2便が輸出されました。この第2便米輸出に対して、JA全農では、中国国内における日本産米の認知度を更に高め、日本産米の「安心・安全」を浸透させる目的で、北京、上海という中国を代表する2都市で、販売促進活動を実施しました。

イベントは、両都市の百貨店等を会場に、北京2ヶ所、上海1ヶ所で開催され、両都市の有名和食調理人を招聘し、新潟県産コシヒカリを使用し、巻き寿司、ちらし寿司等の作り方を実演し、試食を提供するという内容でした。

関係者にお話を伺ったところ、「今回は日本産米の購入目的を贈答用だけでなく、購買者自身の消費を促す内容とした。料理長の実演に対する興味・その真剣度などから消費者に大きなインパクトを与えられたと思う。また、寿司を前面に出すことで、「日本産米」自体の良さを宣伝できたのでは。」とのお話でした。

料理長の実演は1日3回(その他の時間帯はミニおにぎりを提供)行われ、両都市合わせて約2,300人もの方が試食されたとの事。また、実演、試食のほか、中国では日本の様にお米を研ぐ習慣がないことから、「米の研ぎ方」、「巻き寿司の作り方」、「ご飯を使った日本料理のレシピ」等の配布もあり、実演のアナウンスをする度に、30人~40人が料理長をすぐに取り囲むなど、来場者には好評だったとの事です。

北京

2月23日(土) イトヨーカドー2号店 地下食品売場

2月24日(日) 太平洋百貨店 地下食品売場

実演者: ホテルニューオータニ長富宮 和食総料理長 比留間 健一氏



イトヨーカドー



イトヨーカドー

上海

3月1日(土) 久光百貨店 地下食品売場

実演者: 日本料理たくみ料理長 平岡 治夫氏(長岡市出身)



太平洋百貨店



久光百貨店



両会場の掲載写真は全てJA全農様よりご提供いただきました。

上海華東交易会レポート

第18回中国華東進出口(輸出入)商品交易会が上海新国際博覧中心にて3月1日から5日まで開催されました。日用品、服飾品などの分野で上海市、江蘇省、浙江省などを中心として全国各地から5,346のブース出展があり、日本からも新潟県、大阪府、石川県、福岡市などの企業・団体が出展しました。新潟県ブースは9企業・団体が出展し、訪れたバイヤーとの間で熱心な商談が行なわれていました。



会場内新潟県企業ブース



会場となった上海新国際博覧中心



上海世界旅游資源博覧会レポート

自治体国際化協会北京事務所 伊藤氏(新潟市派遣)より報告

自治体国際化協会北京事務所(CLAIR)に勤務している伊藤です。今回、3月27日から30日まで上海で行われました、「上海世界旅遊資源博覧会(WTF2008)」に、CLAIRとしてブースを出展し、日本の自治体のPR活動を行って来ました。

中国では平成12年9月から、上海市を含む2市1省の住居者を皮切りに、日本への団体観光旅行が解禁されました。そのため、今回の来場者の中には、日本に訪問したことのある人や、日本に対する知識が豊富な人が多く見受けられました。

上海各地の旅行会社によれば、特にここ数年、桜の咲くこの時期の訪日観光ツアーの人气が上海で高まっており、中国人ツアーの件数も急増しているとのこと。

今年3月からは条件付きではあるものの、家族の場合、2名からの訪日旅行が可能になったことから、これを活用した旅行商品が企画され、訪日旅行が今後さらに拡大していくことと思われます。



会場となった上海展覧中心



CLAIRブース



接客対応する伊藤氏

なおCLAIRでは、2008年度も中国各地で開催される博覧会に参加し、日本自治体の観光等のPR活動を行っていく予定です。詳しくは、下記HPをご覧ください。

http://www.clair.org.cn/act_cont_6.htm



西園寺 一晃先生の

中国問題リポート NO.5

「两会」、経済、ポスト胡錦濤

3月は「两会」の季節だ。「两会」とは、全国人民政治協商会議（政協）と全国人民代表大会（全人代）。今年はともに5年に1度の指導部改選の大会だった。政協は指導政党である共産党と他の政党、各分野の代表による協議機関、中国流に言えば「統一戦線組織」である。中国には共産党以外の政党はないと思っている人が多いが、実際には他にもいくつかの政党が存在する。全人代は日本の国会にあたる立法機関で、行政府である國務院の首相などの人事も決める。

さて、今年は北京オリンピックの年でもあり、两会は熱気に満ちたものになったが、その一方で两会開催前夜、中国指導部を悩ますいくつかの問題が発生した。1つは旧正月前に南部で発生した50年に1度と言われる大規模な氷雪害、2つ目は中国の輸出食品の毒物注入・汚染問題、3つ目は歯止めがかからない物価上昇によるインフレの危険である。

氷雪害は農業、交通・輸送、輸出などに大きな損害が発生し、国民生活を直撃した。ちょうど春節（旧正月）と重なり、旅行・帰省客を巻き込んで交通が大混乱になった。農業省の発表によると、農作物の被災面積は1180万ヘクタール、特に被害が大きかった作物はアブラナ、野菜、柑橘類で、家畜・家禽や漁業（淡水）にも大きな被害が出た。氷雪害で死んだ家畜・家禽は6900万頭に上ったという。

さらに輸出食品の安全問題。衝撃的だったのは日本向け輸出用の餃子問題だった。これは残留農薬問題とは違い、明らかに意図的な毒物混入事件なので、中国のイメージダウンも避けられず、胡錦濤主席訪日にも影を落とし、やっと改善の軌道に乗った日中関係に水を差す結果となった。中国指導部の衝撃は大きかった。この2つは想定外の出来事だった。

インフレの危険は、昨年来中国政府も度々懸念を表明してきたので想定外とは言えないが、政府の諸措置にもかかわらず物価の上昇は止まらなかった。昨年の通年消費者物価指数（CPI）は、対前年比4.8%上昇だったが、夏以降は5ヶ月連続で6%台の上昇を記録していた。今年に入り、1月のCPI上昇率は7.1%、2月は8.7%に上がった。上昇率8.9%を記録した96年5月以降最高の上昇である。主たる原因は23.7%上昇した食品。その中でも豚肉が63.4%（肉全体では45.3%）上昇、生鮮野菜が46.0%上昇と、まさに国民生活を直撃している。中国経済はインフレの危険水域に達したといえる。ただ皮肉なのは、これも急成長であるが故の現象と言える。原因の中には氷雪害、石油の高騰などが含まれるが、急成長のマイナス部分がここに来て噴出したと言える。政府は3年も前から成長を8%程度に抑えたいと言い続けてきた。

ところがここ3年逆に成長の速度は速まり11%台になった。昨年末の中央経済工作会議でも「速すぎる経済成長が過熱に転じるのを防ぎ、物価の（指数）構成上の上昇が明らかなインフレに変わるのを防がねばならない」と警告しているが、CPI上昇に歯止めはかからなかった。今後は更なる金融引き締め政策を取るだろう。しかし金融の引き締めが過度になると、経済そのものが失速しかねない。政府は「高い成長は維持するが、経済過熱は防ぐ」という綱渡りを強いられることになる。全人代では、CPI上昇率4.8%、成長率8%という目標を掲げたが、中央銀行である人民銀行の易綱・副総裁は08年の成長率を10%台と見ている。社会科学院世界経済政治研究所の余永定所長は9%台と予測する。世界銀行は年初中国の08年成長率を10.8%と予測したが、間もなく9.6%に修正した。国連、国際通貨基金（IMF）は、ともに10%台と見ている。

実はもう1つ中国政府を悩ます問題があった。それは米国経済の落ち込みとその影響である。サブプライムローン問題に端を発した米国経済の落ち込みは、ある程度中国も読んでいただろうが、これほどまでに深刻であることは読めなかった節がある。また、米国経済の落ち込みの中国への影響について、これまでどちらかというところ楽観的で、対米輸出の減速はある程度織り込んでいた。対EU輸出が好調なので、相殺できると考えていた。確かに中国の輸出は右肩上がりだ。中国は2001年に世界貿易機関（WTO）に加盟したが、加盟以降6年間で中国の輸出は約5倍になり、なお拡大し続けている。07年には対前年比25.7%増の1兆2180億ドル（約130兆円）になり、米国を抜きドイツに次いで世界第2位となった。ちなみに07年の輸入は、対前年比20.8%増の9558億ドルで、01年の約4倍である。中国の貿易総額はあと1、2年でドイツを抜き、米国について2位になるだろう。このように中国が強気になる要素はあるが、中国の貿易相手国で米国は1位、やはり米国経済の大きな落ち込みは中国の輸出に陰を落とすことになる。中国の08年経済成長率の予測値は、米国経済の影響度をどう見るかで違ってくる。またドル安、元高が進んでいることも中国にとっては良し悪しだ。元高は中国の輸出に不利な一方で、欧米の元に対する圧力が減り貿易摩擦解消につながるし、インフレ防止対策にもなる。

さて、今回の政協と全人代のもう1つの関心事は人事だろう。実はこの两会の主要人事は、昨年10月に開催された共産党大会の人事と密接にリンクしている。普通は党内序列NO.1が国家主席兼中央軍事委員会主席、NO.2が全人代委員長、NO.3が國務院総理、NO.4が政協主席となる。今回もこれらの主要ポストはその通りになった（全員留任）。全人代委員長の格は形式上國務院総理より上だが、実際には総理職のほうが重要だ。胡錦濤・温家宝体制と言われる所以である。この4人は、5年後には全員リタイアすることが決まっている。そこで問題になるのはポスト胡・温だ。

昨年10月の共産党大会で、2人の人物が注目された。新しく党中央政治局常務委員となった習近平と李克強だ。李克強は1955年生まれ、安徽省出身、北京大学卒。

李は胡錦濤直系の、中国共産主義青年団（共青团）出身で、早くからポスト胡錦濤の最有力候補と見られていたので、52歳という若さで最高指導部入りをしたのは当然と思われた。今回の全人代では筆頭副総理に選出された。一方習近平は1953年生まれ、陝西省出身、精華大学卒。習は「太子党」（党幹部2世）で、父親は毛沢東・周恩来時代の党幹部だった習仲勲。習近平はそれほど注目されていなかったが、意外にも党内序列は李克強より上にランクされ、かつて胡錦濤も務めた中央党学校校長や党務を仕切る党中央書記局の筆頭書記の座にも就いた。今回の全人代では国家副主席に選出され、一気にポスト胡錦濤の最有力候補に躍り出た。

今の中国流幹部選抜法は、かつてと違いナンバーワンが後継指名するわけではない。複数名の候補者を選んで、具体的な仕事をさせる中で競わせ、実力を試すというものだ。その意味では、ポスト胡錦濤が決まったわけではないが、順調に行けば、ポスト胡錦濤が習近平、ポスト温家宝が李克強となるだろう。

つまり5年後の中国は習近平党総書記・国家主席・中央軍事委員会主席、李克強國務院総理という体制が発足することになる。その回りを昨年の党大会で中央政治局入りを果たした50歳代の王岐山（1948年生まれ、山西省出身、西北大学卒、北京市長）、李源潮（1950年生まれ、

江蘇省出身、中央党学校大学院、江蘇省党委員会書記）、汪洋（1955年生まれ、安徽省出身、中央党学校卒、重慶市党委員会書記）、薄熙来（1949年生まれ、山西省出身、中国北京大学、社会科学院大学院卒、商務相）などが固めることになるだろう。（注）

（注）カッコ内の役職は昨年10月の党大会時のもの

西園寺 一晃

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

明治の元勲・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。

西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。

北京大学経済学部卒業

朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。

現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授



新休日「清明節」と中国休暇制度について

「清明節」とは、中国でお墓を清め、先祖を供養する日とされ、家族で祖先の墓へ行き、お線香をあげ祖先を供養することから、「掃墓節」とも言われています。この清明節が、今年の1月1日より、中国の休暇に係る法律が改正され休日となりました。今年は4月4日がそれにあたり、中国では3連休となり、観光名所は観光客で賑わうものと予想されています。

中国のお休みには、「法定休日」と「休日」があり、「清明節」は今年から「法定休日」に指定されたものです。この他、新たに「端午節（今年：6月8日）」、「中秋節（今年：9月14日）」が指定されました。

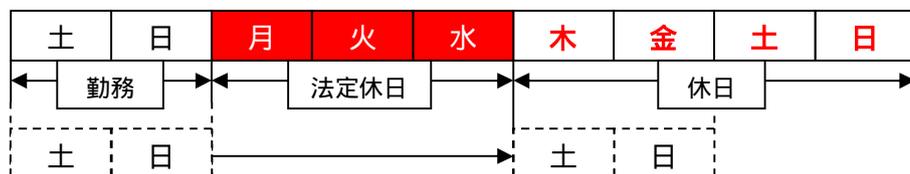
そもそも、この休暇制度が改正される以前は、「春節（旧正月）」、「労働節（5月1日～）」、「国慶節（10月1日～）」の年3回1週間のお休みがありました。（注1）

しかし、昨今の経済の発展に伴い国民の移動が活発になる中で、年3回の長期休暇時に人の移動が集中し、観光地は人で溢れ、飛行機、鉄道のチケットが入手困難になる等、正常な社会経営に支障を来し始めたため、労働節の連休を短くし休暇を分散させ、3連休を増やしたものです。

この新休暇制度、中国国民の移動にどのように影響するのか、折を見てお伝えしたいと思います。

（注1）1週間の長期休暇のしくみ

上記の1週間のお休みは、7日間全てが「法定休日」ではありません。各節とも法定休日は3日となっており、7日間の連休のしくみを例示すると下図のとおりとなっており、実際の休暇期間は、毎年の中国國務院の発表によっています。



概ね、法定休日直前の土・日曜日を勤務する代わりに、その2日間の休みを法定休日以外の2日間に充て、次の土・日曜日と繋げて7日間の休みを作ります。政府機関は別ですが、先に休むか、後で休むか運用の実態は各企業で異なるようです。

世界最大級空港ターミナル

北京首都国際空港第3ターミナル供用開始

北京オリンピックの国内外の訪問客に対応するため、工事が進められていた中国首都北京の空の玄関口である北京首都国際空港の第3番目のターミナル（T-3）が2月29日から2段階に分けて供用開始となりました。第1段階の2月29日は、中国国内2社、海外4社の航空会社が移転、運用を開始し、その約1ヵ月後の3月26日に中国国際航空をはじめとする中国国内2社、日系（日本航空、全日本空輸）航空会社他、海外16社が移転、運用を開始しました。

今回供用開始されたターミナルは単一ターミナルとしては、世界最大規模になるとの事で、延べ床面積は98万6,000㎡、既存の第1（T-1）、第2（T-2）ターミナルを合わせると、約138万㎡にもなるとの事。各航空会社は、新ターミナルへの移転、供用開始のお知らせと同時に、大規模なターミナルであるが故に、チェックイン締切時間が早まったため、時間の余裕を持って利用してほしいと呼びかけています。更に国際線利用時には、コンピュータ制御されている無人シャトル（3分間隔）を利用しなければなりません。先日国内出張で利用しましたが、ターミナル内の移動には、相当時間を要します。

また、出発ターミナルの間違いを防ぐため、チケット購入時にターミナル確認を行うよう注意を促しています。万一間違った場合、既存の第1、第2ターミナルとは距離にして約7km、移動時間10～15分（無料シャトルバスあり：15分間隔）が必要であり、短時間で移動という訳にはいかないのです。なお、既存の第1、第2ターミナルと第3ターミナル間の国際 - 国内線の乗り継ぎの最短時間は160分となっておりますこれも注意が必要です。（北京首都空港をご利用の際は、搭乗航空会社へお問い合わせください。）

新ターミナルのOPENに伴い、滑走路も1本供用開始となり、今後は、供用開始前のフライト数1,000本/日から1,700～1,800本/日まで増えると言われていきます。慢性的に滑走路が混んでおり、離発着の遅延も多かった当空港の改善に期待したいところです。



出発エントランス



チェックインロビー



コンピュータ制御無人シャトル



よろしく願います

新職員ご紹介

新潟市北京事務所

職員 鞠維燕（きく い えん）



初めまして、鞠維燕と申します。この度、新潟市北京事務所に採用され、大変嬉しく存じます。

2004年、私は研究生として敬和学園大学で勉強しておりました。そして、新潟でたくさんの友達と出会い、楽しい思い出をいっぱい作りました。わずか一年間でしたが、親切で思いやりのある新潟の方々、新潟の四季を彩る美しい花々、日本海の夕日、盛大な新潟まつり等、深い印象が残りました。

経済貿易面においても中日両国は互いに重要なパートナーですが、双方の経済協力や友好親善をより一層促進するためには国同士の交流だけではなく、国と民間、民間と民間、ひいては県市民一人一人の交流が欠かせません。この中で、2007年に本州日本海側初の政令市となった新潟市、そして日本海側の中央に位置する新潟県はより大きな役割を果たせると信じております。これからの仕事を通じて新潟のことをさらに学習し、より多くの中国の方々を知っていただけるよう頑張りたいと思います。何卒よろしく願いいたします。

北京こぼればなし vol.5

小さな中国語教室

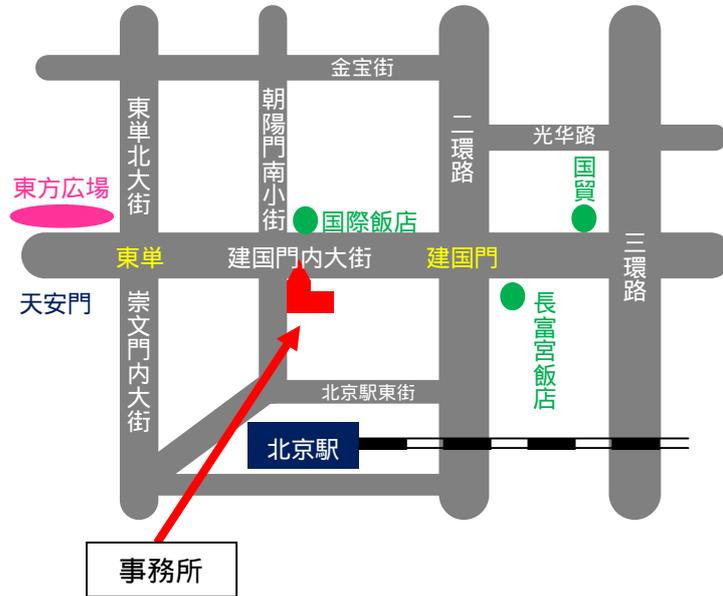
マイカーのない北京での生活では、タクシーを利用する機会が多くあります。（初乗り10元＝約150円ということもあります。）一人で乗車する際には、必ず助手席に座るようにしています。日本では後部座席への乗車が一般的ですが、中国では、少し事情が異なっています。最近でこそ後部座席へ座る人が増えましたが、以前は助手席に乗っている客も多かったのです。危険（事故など）だという意見もありますが、前方の状況、サイドミラーを通して後方の状況を確認（時には足を踏ん張る事もできる）でき、シートベルトをすることもできます。よって、今まで身の危険を感じたことはありませんし、おまけに道まで覚えることが容易にできます。道を覚えると言う事は、万一の不正金額の要求（いわゆるポッタクリ）対応にもなります。

さて、道を覚えるほか、何故に助手席に座るのか。それは、運転手を先生に、乗車時間を使い中国語教室を勝手に開設するためなのです。また、コミュニケーションをはかることで、相手も親切にしてくれたりします。助手席に座ることで言葉も聞き取り易くなりますし、相手の表情もよくわかります。話す内容は、天気、時事ネタから、政治文化等々。また、運転手は1日中ラジオを聴いているので、ひょんな最新ニュースを教えてもらう事もあります。当然よい事ばかりではなく、時には日本の批判も受ける事も。

また、日本語教室に変わる時もあり、あいさつから、日本の有名人、歌などに話題が移る場合もあります。先日は運転手と「北国の春」を合唱し、目的地に到着しました。

小さな中国語教室。これからも開設し続けたいと思います。（関）

新潟市北京事務所案内図



北京市東城区建國門內大街 18 号

恒基中心 1 号楼 704 室

TEL +86(10)6517-2460/3340

FAX +86(10)6517-8687